

対向スタガード2 Way

使用ユニット

ウーファ DCU-F101G ダブル (PARC)
ツイータ OT19NC00-04 (Tymphany)



特徴

ウーファは前後に対向で結合して使用しています。前方はツイータを合わせて2Wayとし、後方はフルレンジと変化をつけF101Gを使用帯域を分けスタガードで使います。結果全体で無指向性に近くなっています。

ウーファが前後で離れているとユニット間で時間遅れが出るので、それぞれ別アンプで駆動し、遅れ分のディレイをかけて頭を合わせるようにしています(ツイータも同じ)。

そのため全体では3 Way マルチアンプ駆動となりクロス周波数は約 2.5kHz です。エンクロージャはボイド管使用のバスレフ構造でポートは底面にあり、共振周波数は約40 Hz です。



ウーファ部

ウーファの結合状態



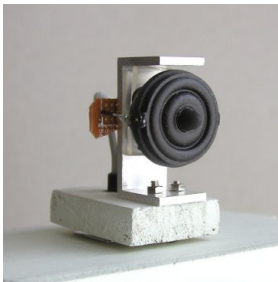
左写真の様に前後のユニットを長ネジで通して結合させ振動打消しをしてエンクロージャのの鳴きを抑えています。

ボイド管のエンクロージャとはバッフル板と接着で固定。

スピーカユニットが付いたヘッド部と下部エンクロージャは筒状のはめ込みで分離できる構造となっています。



ツイータ部

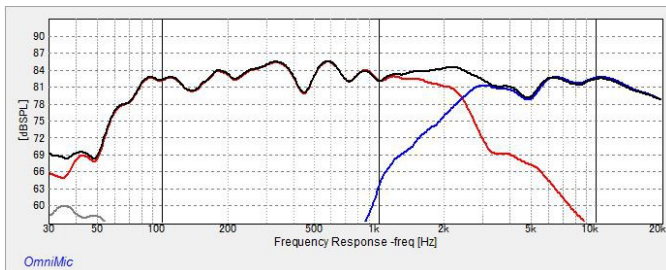


ツイータ本体は特殊な形状で取付フランジが無いので、支柱をジェルを間に基板と挟んで固定しています。縦振動を伝え難いのでウーファからの振動を遮断するようなフローティング構造となっています。

本体への取付は電気的接続と物理的固定を兼ねて底部に DC ジャックを埋め込みウーファ天部のプラグに差し込むことで簡単に設置、取り外しができます。



特性



40Hz ぐらいまで伸びますがその分うねりが出ます。右上は Wavelet、右下はポーラパターンデータです。

フリーだと低域は60Hz ぐらいで、壁の反射を上手く使うと

